

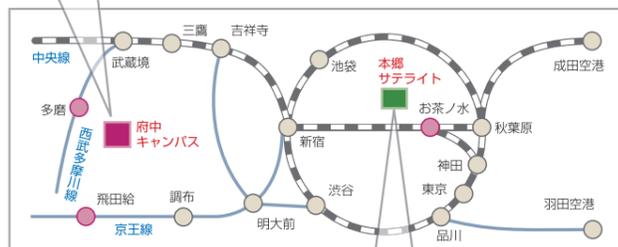
区分	所在地	電話番号	FAX
事務局 言語文化学部 国際社会学部 大学院総合国際学研究所 附属図書館 保健管理センター アジア・アフリカ言語文化研究所 留学生日本語教育センター	〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1	042-330-5111	042-330-5140
国際交流会館	〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1	042-330-5185	042-330-5189
戸田合宿研修所	〒335-0024 埼玉県戸田市戸田公園1-49	048-441-2586	
TUFS田沢湖温泉ロッジ (田沢湖高原研修施設)	〒014-1201 秋田県仙北市田沢湖生保内 字駒ヶ岳2-16	0187-46-2730	0187-46-2730
本郷サテライト	〒113-0033 東京都文京区本郷2-14-10	03-5805-3254	

東京外国語大学 府中キャンパス

- JR中央線「武蔵境」駅のりかえ
西武多摩川線
「多磨」駅下車
徒歩5分
(JR新宿駅から約40分)
- 京王電鉄「飛田給」駅北口より
多磨駅行き京王バスにて
約10分
「東京外国語大学前」下車

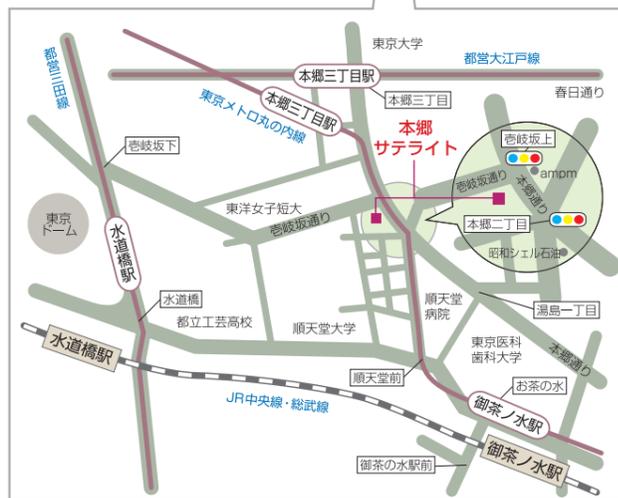


【路線図】



東京外国語大学 本郷サテライト

- 地下鉄(丸ノ内線・大江戸線)
「本郷三丁目」駅下車
徒歩5分
- JR中央線・総武線
「御茶ノ水」駅下車
徒歩10分



校章由来

1897(明治30)年に東京高等商業学校附属外国語学校として創立された本学が、1899(明治32)年、東京外国語学校として独立する際に、神田乃武校長をはじめ各教官協議の結果、この徽章を制定した。炬火(たいまつ)は、「光は世を照らす」ことを意味し、Lはラテン語のLinguaの頭文字をとった。左右の羽翼については、独立当初に教授した8語学科を意味しているといわれている。

東京外国語大学 概要

2016
《平成28年度》





CONTENTS

学長あいさつ	2
第三期中期目標	3
早わかり東京外大	4
トピックス1:スーパーグローバル大学構想	6
トピックス2:大学院博士前期課程の改組	7
沿革・略史	8
運営組織・教育研究組織	10
教育組織	12
研究組織	14
その他教育研究支援組織	16
社会・国際貢献	18
大学・高校などとの連携	19
国際学術交流協定	20

TUFS towards Interculturality through Language and Area Studies



東京外国語大学長
立石 博高
TATEISHI, Hirofumi
(西洋史、スペイン語研究)

昨今、産官学の各方面から「グローバル人材の育成」が唱えられています。21世紀に入り、国内市場と海外市場の境目がなくなる、国境を越えて人と物が大規模に移動するなど、「グローバル化」がますます進んでいます。そして、世界のあらゆる地域の経済・社会・文化がこのグローバル化に巻き込まれるという状況の中、物事への対処には、あたかも鳥が空から見おろすような、物事の全体像を地球規模で捉え、的確な判断を下す「俯瞰的視野」をもつ「グローバル人材」が必要とされるからです。

東京外国語大学は、江戸末期、幕府が設けた洋学の研究・教育施設で、外交文書の翻訳をもおこなった本学の前身である蕃書調所以来、150年を超えるその歴史の中で、一貫して「グローバル人材」の育成をおこなってきました。「広い視野と優れた言語運用能力、世界の諸地域に関する深い知識を備え、異文化間の相互理解に寄与し、日本と世界を結ぶ人材、全地球的課題に取り組むことのできる人材」を広く社会に送り出していくことを本学の役割と考えています。

卓越した「グローバル人材」として欠かせないのは、「主体性」、「積極性」、そして「チャレンジ精神」です。本学は、学生たちが、さまざまな学習と課外活動などを通じてこれらのものを身につけられるように支援しています。そして、大学卒業後は、豊かな想像力と批判的思考力をもったマルチリンガルな地球市民として世界各地で活躍してもらいたいと願っています。

そのための様々な取組が評価され、本学は、平成26年度文部科学省により「スーパーグローバル大学創成事業」の大学に選ばれました。この事業により本学は、言語研究と地域研究を二つの柱として日本のグローバル化を牽引する大学へと飛躍しようとしています。すなわち、「世界から日本へ、日本から世界へ一人と地の循環を支えるネットワーク中核大学」という構想の実現です。さらに今年度より、本学は、国際日本学研究院を発足させ、本学の強みを生かした国際日本研究の推進、日本発信力強化に取り組んでいます。この事業は、文部科学省「国立大学の機能強化」事業に位置づけられました。

本学は、「国際日本研究」により、世界と日本を架橋していきます。グローバル化が進展する現代において、異文化理解と多文化共生を学び文化的多様性を尊重するインターカルチュラリティ(interculturality)を身につけた人材を国際社会に排出する東京外国語大学にご期待ください。

大学の基本的な目標

世界諸地域と日本を結ぶ教育研究拠点大学
世界の言語・地域の理解を基盤とし、異文化間の対話と相互理解、
地球社会における人々の共存・共生に寄与する東京外国語大学

東京外国語大学は、1873年に建学された東京外国語学校の使命を引き継ぎ、外国の言語とそれを基底とする文化一般を研究・教授し、言語を通して外国に関する理解を深めることを目的として、日本と世界諸地域を結ぶ人材を養成してきました。

やがて建学150周年を迎えるにあたり、世界諸地域の言語・文化・社会に関する高等教育の中心として、また、学際的研究拠点としての役割をさらに明確にします。すなわち、広い視野と優れた言語運用能力、世界の諸地域に関する深い知識を備え、異文化間の相互理解に寄与し、日本と世界を結ぶ人材、地球的課題に取り組むことのできる人材の養成を目指すとともに、世界の最先端の水準をもつ研究成果を発信します。

教育

教育においては、日本のグローバル化を先導する大学として、キャンパスのグローバル化や、海外の教育機関と連携した世界の言語・文化・社会の教育研究を通じて、地球的課題に取り組む、世界諸地域の人々と協働できる多言語グローバル人材を養成します。また、日本社会の文化的発信力を強化する教育研究の機能を高めるために、国際的視野からの日本研究を推進し、留学生教育の拠点として国内外の教育機関と連携します。

研究

研究においては、グローバルな視点に基づく世界諸地域の政治・経済・社会、文化・諸言語の研究並びに日本及び日本語に関する研究を推進します。また、共同利用・共同研究拠点として、アジア・アフリカ地域の諸問題及び諸言語に関する研究をリードし、研究蓄積を情報資源化する事業を国内外の研究機関・研究者とともに推進します。

社会貢献

社会貢献においては、自治体や民間企業、各種NGOと多面的に協働し、世界諸地域・諸言語に関する知識や研究成果と、多文化共生社会の実現をめぐる具体的課題とを結ぶ社会実装教育に取り組みます。また、知識社会における生涯教育やリカレント教育のニーズに積極的に応え、大学が中心となって市民社会の文化的活性化を図ります。

このようにして本学は、これまで培ってきた日本を含む世界諸地域の知識・経験をもとに、多面的な大学連携を推進する「ネットワーク中核大学」として、高等教育全体のグローバル化を牽引し、地球社会における人々の共存・共生に寄与します。

大学の歴史

起源 江戸時代の蕃書調所(1857)
 建学 東京外国語学校(1873)
 創立 高等商業学校 附属外国語学校(1897)
 独立 東京外国語学校(1899)
 新制大学発足 東京外国語大学(1947)

2023年に建学 **150周年** を迎えます

▶ 概要P.8-9参照

主な組織

学部 言語文化学部、国際社会学部
 大学院 大学院総合国際学研究所
 (博士前期・博士後期)
 研究所 アジア・アフリカ言語文化研究所
 (共同利用・共同研究拠点)
 その他 留学生日本語教育センター
 (教育関係共同利用拠点)
 附属図書館 など

▶ 概要P.10-17参照

教職員数

(2016.5.1現在)

役員等 8名
 教員 260名(うち外国人教員38名)
 事務局 114名
 その他 20名

計 **402名**

[国際化のための多様性]

外国の大学で学位取得の教員 48名
 3年以上海外で研究教育経験者(日本人) 44名
 外国の大学での学位取得した事務職員 6名
 1年以上海外職務経験の事務職員 7名

▶ データ集P.18、21参照

女性比率

(2016.5.1現在)

女性役員等 3名/8名(37.5%)
 女性部局長 3名/7名(42.9%)
 女性教員 97名/260名(37.3%)
 女性職員 50名/114名(43.9%)
 学部学生 2,530名/3,858名(65.6%)
 大学院生 326名/529名(61.6%)

在籍学生数

(2016.5.1現在)

学部 **3,858名**
 言語文化学部 1854名
 国際社会学部 1869名
 外国語学部(学部改編により募集終了) 135名
 大学院 **529名**
 博士前期 321名
 博士後期 208名

留学生 **620名** (学部・大学院正規学生計348名含む)
 学部進学留学生除く

在学生数 計 **4,659名**

▶ データ集P.7-12参照

学部留学者数

(2015年度)

短期留学 **562名**
 (6ヶ月未満)
 長期留学 **824名** ※ 出発した人数 + 帰国した人数
 (6ヶ月以上) 交換留学 309名、その他 515名

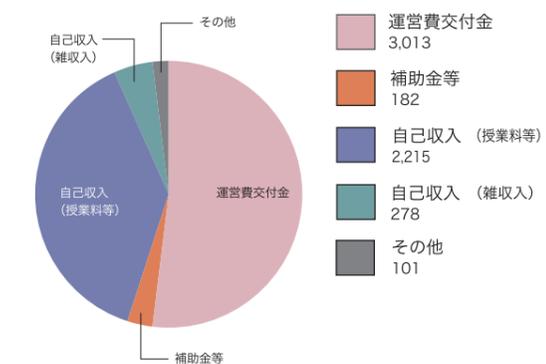
計 **1,386名**

2015年度は、全学生の36.2%が留学を経験しました。
 さらに、**在学中の留学経験者は全体の半数。**
 そして**めざすは、留学200%!**

▶ データ集P.13参照

予算

(2016.5.1現在)



▶ データ集P.19参照

蔵書数

(2016.5.1現在)

和漢書 約30万冊
 洋書 約46万冊
 製本雑誌等 約9万冊

計 **85万冊**

世界各地域から **260を超える言語資料**

▶ 概要P.16、データ集P.18参照

学べる言語数

主専攻語 **27言語**

英語、ドイツ語、ポーランド語、チェコ語、フランス語、イタリア語、
 スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、モンゴル語、日本語、中国語、
 朝鮮語、インドネシア語、マレーシア語、フィリピン語、タイ語、
 ラオス語、ベトナム語、カンボジア語、ビルマ語、ウルドゥー語、
 ヒンディー語、ベンガル語、アラビア語、ペルシア語、トルコ語

主専攻語以外 **38言語**

計 **65言語**

▶ 概要P.12-13参照

海外協定校数



計 **63ヶ国・地域 167機関**

▶ 概要P.20-21参照

進行中の主な補助金事業

(2016.5.1現在)

- 文部科学省採択事業
 - スーパーグローバル大学創成支援事業(タイブ:グローバル化牽引大学)
 「人と知の循環を支えるネットワーク中核大学ー世界から日本へ、日本から世界へ」
 2014(平成26)年度 採択
 - 国立大学の機能強化事業「国際日本研究の推進」
 2015(平成27)年度 重点支援決定
- 大学の世界展開力強化事業(中南米)
 「日本と中南米が取り組む地球的課題を解決する文理協働型人材養成プログラム」
 (東京外国語大学・東京農工大学・電気通信大学、連携プログラム)
- 頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム
 「境界地域の歴史的経験の視点から構築する新しいヨーロッパ史概念」

学生の活躍

2015年度スピーチコンテスト表彰実績(受賞日順)

ポーランド語スピーチコンテスト(1位・2位・3位)、全日本中国語スピーチコンテスト(2位・3位)、香港杯全日本大学学生大使英語プログラム(2位)、全国学生スペイン語弁論大会第1部(2位)、全日本学生ポルトガル語弁論大会(2位・6位)、留学生論文コンクール(3位)、全日本学生ドイツ語弁論大会(2位・6位)、マレー語スピーチコンテスト(1位・2位・3位)、ベトナム語スピーチコンテスト(1位・2位・3位)、学生通訳コンテスト(2位)、佐藤栄作賞(1位)、カンボジア語スピーチコンテスト(3位)、“漢語橋”世界大学生中国語コンテスト東日本地区予選大会(1位・3位)

世界から日本へ、日本から世界へ

東京外国語大学は、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」事業の「グローバル牽引型大学」として、世界トップレベルの大学との交流・連携を実現し、世界で活躍できるグローバル人材を社会に送り出す機能と体制を備えています。2024年度までに、人と知の循環を支えるネットワーク中核拠点としての機能を強化し、グローバル社会を牽引する人材の育成を行うため教育・研究のグローバル化を進めています。

多言語グローバル人材養成プラン

- Joint Education Program
- 留学200% + 受入れ留学生2倍
- 語学を中心とした教育指標の可視化
- 自主的計画的な学びのTUFSCクォーター制
- 多言語カリキュラム

留学 200%

—1人2回以上の留学—

日本人学生への留学支援体制を構築し、学生の海外留学を実現します。目標は、1人2回以上留学する「留学200%」です。

発信力強化プラン

- 世界各地にGlobal Japan Office設置
- 全学教養日本カプログラム



Global Japan Office

—平成35年度には38拠点—

主要な海外協定校に「日本語教育・日本教育」の拠点となるGlobal Japan Officeを設置していきます。

- [2016年4月現在開設拠点]
- ヤンゴン大学(ミャンマー)
 - 淡江大学(台湾)
 - ロンドン大学SOAS(英国)
 - 上海外国語大学(中国)
 - 韓国外国語大学校(韓国)
 - カイロ大学(エジプト)
 - サラマンカ大学(スペイン)
 - グアナフアト大学(メキシコ)
 - ベオグラード大学(セルビア)
 - リオ・デ・ジャネイロ州立大学(ブラジル)

大学グローバル化支援プラン

- TUFSC留学支援共同利用センターの活用
- Global Japan Officeの共同利用



留学支援共同利用センター

—安全対策に細心の注意—

留学が決まった学生や留学を考えている学生に適切な情報提供を行います。本センターの活動により、夏学期・冬学期をつかった短期海外留学(ショートビジット)が格段に増加しています。

短期留学者数

2013年度 93人 → 2015年度 562人

本センターは、他大学生も支援の対象としています。

世界の視点で日本を学ぶ 日本を起点に世界を学ぶ



大学院総合国際学研究所 博士前期課程は
世界言語社会専攻 と **国際日本専攻**
の2専攻に生まれ変わりました。

世界言語社会専攻

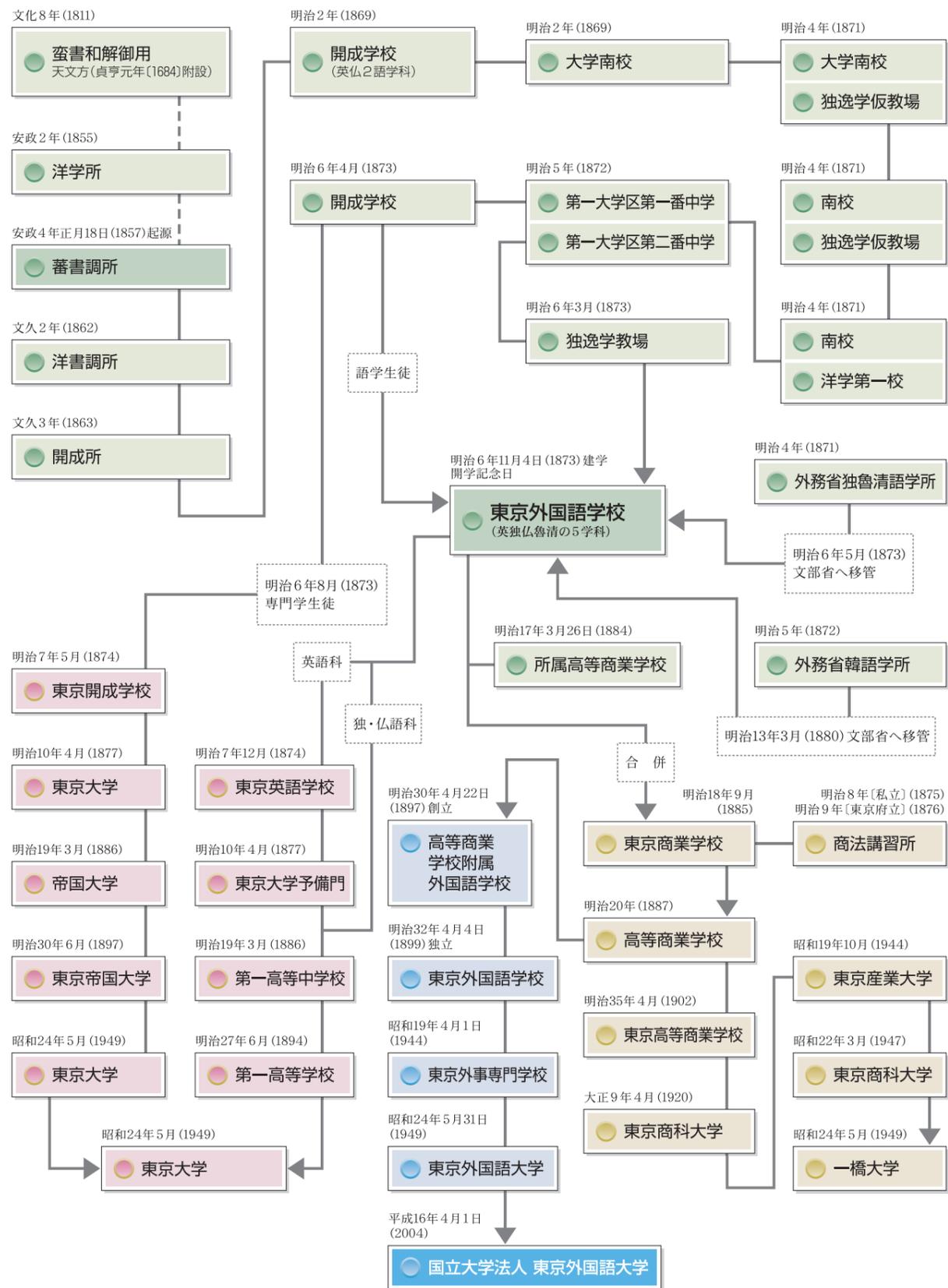
世界諸地域の言語・文化・社会や国際社会を、複合的・総合的にとらえる視点から研究し地球社会化時代にふさわしい多言語グローバル人材を養成します。

言語文化コース、国際社会コース
Peace and Conflict Studiesコース (10月入学)

国際日本専攻

世界の諸言語の中での日本語・日本語教育、世界の中の日本文化と日本社会を比較の視座をもって研究し、日本についての客観的な知見をもつ人材を養成します。

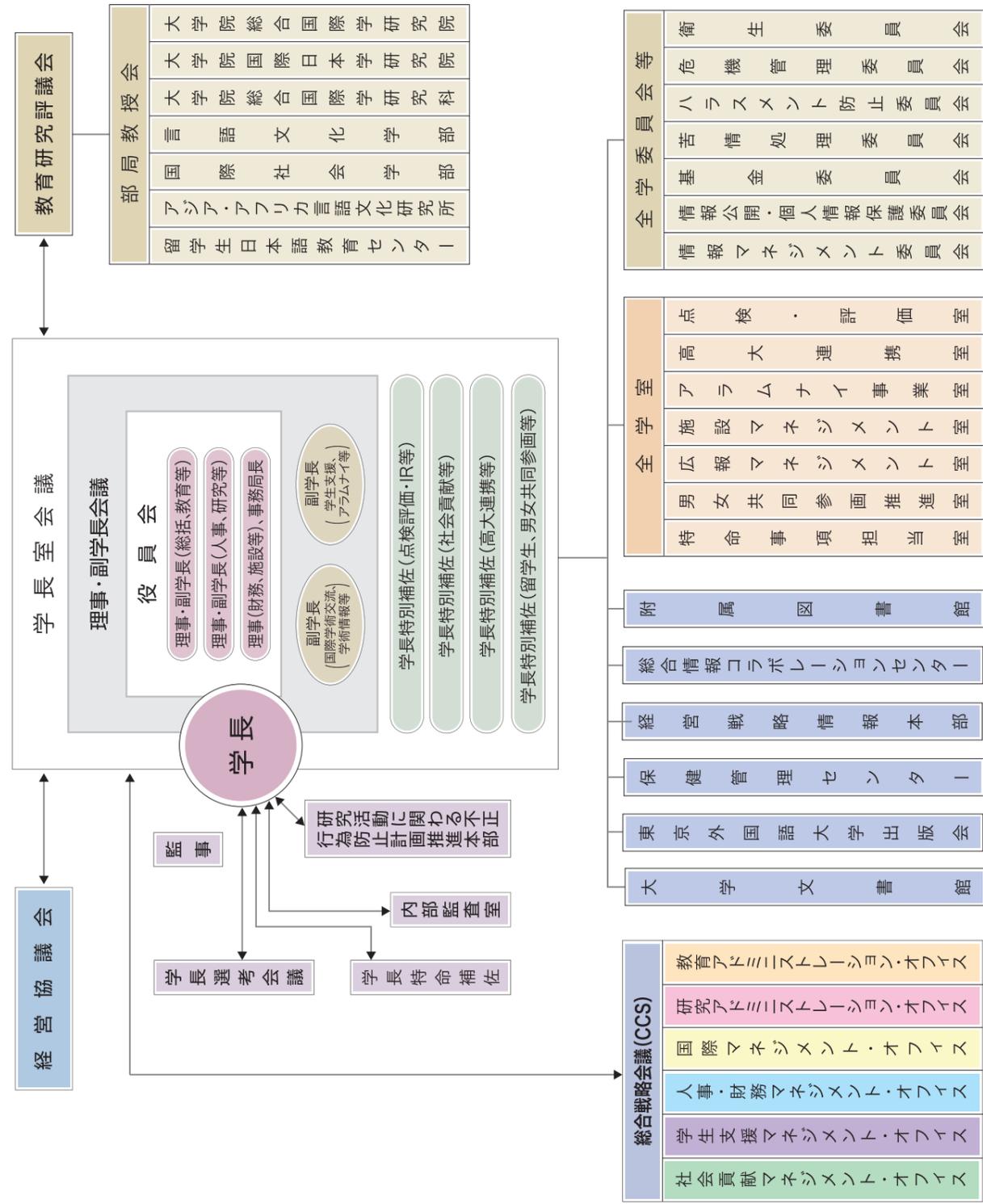
国際日本コース
日本語教育リカレントコース (1年・10月入学)



- 1857 1月18日 蕃書調所、開校
- 1873 11月 4日 神田区一ツ橋通町一番町に、東京外国語学校を建学
- 1885 9月21日 東京外国語学校と同校所属高等商業学校、及び東京商業学校の三校が合併
翌年、語学部は廃止(東京外国語学校の消滅)
- 1897 4月22日 高等商業学校に附属外国語学校を附設(本学創立)
- 1899 4月 4日 高等商業学校附属外国語学校が東京外国語学校と改称、専門学校として独立
- 1900 4月28日 第一回「講演会」を開催(語劇の始まり)
- 1902 秋 第一回学内競漕大会を開催
- 1903 1月 神田区錦町の新築校舎に移転
- 1913 2月20日 神田大火により校舎全焼
- 1913 9月 5日 神田区錦町の本校敷地内に仮校舎建築、移転
- 1917 12月 5日 本校を貿易植民学校へと改称・改組する文部省の意向発表を受け、校友会・同窓会による反対運動開始(校名存続運動の開始)
- 1919 1月 修業年限二か年延長を求める運動
- 1919 9月 4日 文科、貿易科、拓殖科を設置
- 1921 4月10日 麹町区元衛町一番地の新校舎に移転
- 1923 9月 1日 関東大震災、校舎は書庫・柔剣道部・門衛詰所・倉庫物置を除き全焼
- 1924 3月 3日 麹町区竹平町一番地の元文部省跡の新築仮校舎に移転
- 1927 4月 1日 修業年限を3年から4年に改正
- 1940 7月24日 滝野川区西ヶ原町に校舎(第1期分)が完成
- 1944 3月28日 東京外事専門学校と改称
- 1946 8月 1日 板橋区上石紙井の東京工業専門学校の電波兵器技術専修学校跡を借用して移転
- 1947 10月31日 戦後初の語劇祭再開(12学科が参加)
- 1949 5月31日 国立学校設置法の施行により東京外国語大学設置
- 1949 9月 北区西ヶ原町の新築校舎に一部移転
- 1954 7月 5日 外国語学部に海外事情研究所を開設
- 1964 4月 1日 アジア・アフリカ言語文化研究所を附設
- 1966 4月 1日 大学院を設置
- 1970 4月 1日 附属日本語学校を設置
- 1992 4月10日 留学生日本語教育センター改組設置
- 1995 4月 1日 外国語学部を7課程に改組
- 2000 8月11日 府中新キャンパスに移転
- 2004 4月 1日 国立大学法人法に基づき国立大学法人東京外国語大学となる
- 2009 4月 1日 大学院総合国際学研究院を設置
- 2010 4月 1日 異文化交流施設「アゴラ・グローバル」を開設
- 2012 4月 1日 外国語学部を改編し、言語文化学部、国際社会学部を設置
- 2014 9月26日 文部科学省スーパーグローバル大学構想(タイプB:グローバル化牽引型)に採択
- 2015 4月 1日 大学院国際日本学研究院を設置

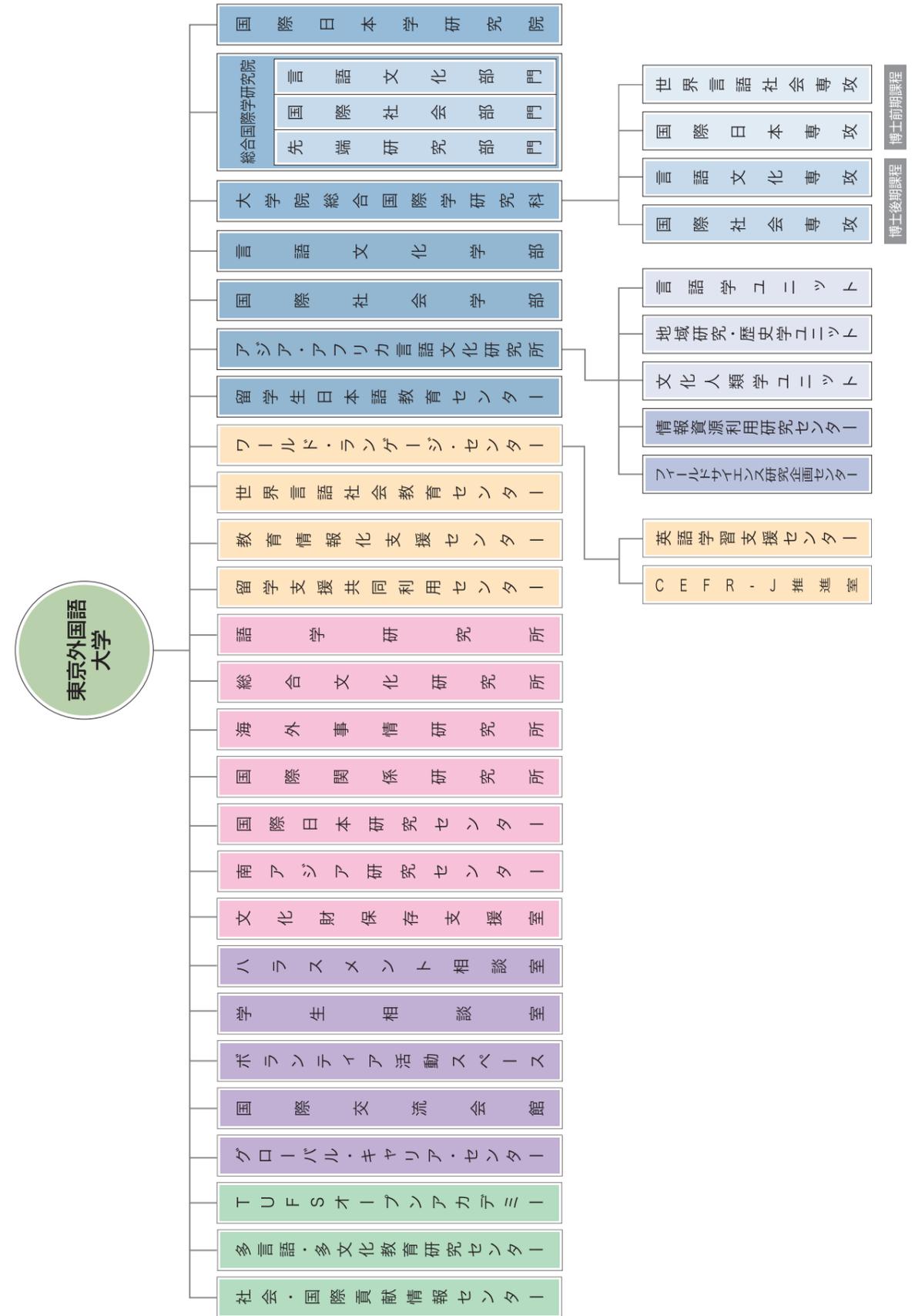
※詳表は「データ集2016」P3を参照のこと。

運営組織



※管轄する教育研究組織は、次頁で同色で示しています。

教育研究組織



博士前期課程
博士後期課程

学部

研究講義棟 TEL:042-330-5555 E-mail: ok@tufs.ac.jp

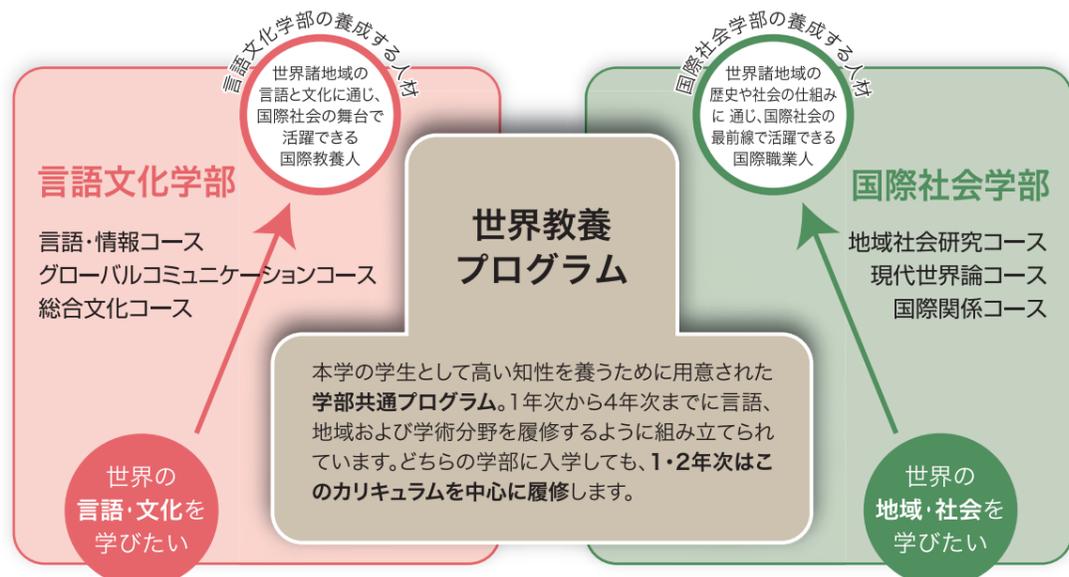
東京外国語大学に入学した学生は、第1年次・第2年次で学部共通の世界教養プログラムを中心に、言語文化学部と国際社会学部それぞれの入門的な授業を履修し、第3年次からコースとゼミに属して専門教育を学んでいきます。

言語文化学部

世界のさまざまな地域の言語や文化に精通し、国内外において異なる言語間・文化間の架け橋となって活躍できる人を養成します。言葉や文化は、それを異にする人々との出会いの中で、しばしば葛藤や軋轢の原因になりますが、それらの解決に必要な知識とスキルを獲得し、人と人、文化と文化を結ぶ優れたコミュニケーション力、コーディネーション力を養うのが言語文化学部の特徴です。言語の学習に重点をおき、**在学期間を通じて専攻する言語や英語を高いレベルまで習得します。専門教育ではその能力を基礎に、ことばや文化を中心とする人間の営みを相対化できる視点を養います。専門教育課程では言語そのものを研究する「言語・情報コース」、言語の教育とコミュニケーションを実践的に扱う「グローバルコミュニケーションコース」、世界各地の文化を探求する「総合文化コース」がおかれています。**

国際社会学部

国際社会・現地社会と協働して現代世界が抱える紛争・災害、環境問題、経済格差・貧困等の問題解決をはかり、社会に貢献する国際職業人を養成します。そのために、世界諸地域に暮らす人々の生活・ものの考え方を教授し、国際社会の仕組みを政治・経済・法制度から解き明かし、グローバルな視点から判断する能力を養います。世界教養プログラムで身につけた英語をはじめ世界の多様な言語運用能力と地域に関する知見を基に、**国際的な視点から世界の現状を分析する方法を学びます。世界諸地域の現地社会に密着して学ぶ「地域社会研究コース」、現代世界の問題群を解き明かし問題解決の方法をさぐる「現代世界論コース」、国際社会の現実をつかみ問題解決の道筋を政策志向的に考える「国際関係コース」の3つのコースがおかれています。**



大学院総合国際学研究所

研究講義棟 TEL:042-330-5555 E-mail: ok@tufs.ac.jp

本研究科は、**世界諸地域の言語・文化・社会をめぐる個別的かつ総合的な研究を主体とする**わが国でも有数の教育機関であり、これらの分野における国際的拠点としての使命を担っています。従来からわが国と交流関係の深かったアジア地域、ヨーロッパ地域、アメリカ地域の言語・文化・社会に関する研究と教育では、百年を越す伝統を誇っています。その後、本学が研究・教育対象とする地域は拡大し、現在では、東南アジア、アフリカ、中東、東欧諸地域の言語・文化・社会の研究と教育も行うなど世界的な拠点となっています。また、日本研究および日本語教育の国際的拠点でもあります。このような背景を持つ本研究科は、研究者を含む高度職業人の養成を目指しています。グローバル化の進行する現代社会で真に貢献できる人材には、専門分野でのより深い知識や高度な技術が求められています。本研究科は、**研究力に加え、総合力、実践力、そして世界で活躍する上で必要な日本力を身につけ、世界や日本でグローバルに活躍するための能力を身につけます。**

博士前期課程

世界を学ぶ、日本を学ぶ

世界言語社会専攻 (定員 102名)

- 言語文化コース
- 国際社会コース
- Peace and Conflict Studies コース

国際日本専攻 (定員 46名)

- 国際日本コース
- 日本語教育リカレントコース

博士後期課程

人文社会科学諸分野を究める

言語文化専攻 (定員 20名)

国際社会専攻 (定員 20名)

留学生日本語教育センター (教育関係共同利用拠点)

留学生日本語教育センター棟 TEL:042-330-5760 E-mail: ryugakusei-nihongo@tufs.ac.jp

留学生日本語教育センターは、「東京外国語大学外国語学部附属日本語学校」(1970設置)と「留学生教育教材開発センター」(1986設置)とを統合して、東京外国語大学の学内共同教育研究施設として1992年に設置され、東京外国語大学のグランドデザインにある「日本語教育研究の世界的な拠点」を目指して活動しています。当センターでは、**国費外国人留学生に対する学部および大学院の入学前予備教育^(*)、全学の留学生に対する日本語教育、並びに国内外の日本語教育機関に対する支援・推進活動**を主な目的として、さまざまなプログラムの実施や関係の業務を行っています。2012年には、文部科学省の日本語教育・教材開発・実践教育研修共同利用拠点に認定されました。

※当センターでは、国費外国人留学生学部留学生が日本の大学の学部に入學して日本人と一緒に授業が受けられるようにするため、渡日初年度の1年間を学部進学留学生として日本語・専門科目の予備教育を、全寮制で行っています。教育活動をより効果的にすると同時に生活を潤いのあるものとするために、全学ポータル大会や研修旅行などの諸行事を実施しています。



大学院総合国際学研究院

研究講義棟 TEL:042-330-5555 E-mail: ok@tufs.ac.jp

2009年に発足した研究組織・教員組織です。
言語文化部門(言語研究系・文化研究系)、**国際社会部門**(地域研究系・国際研究系)、**先端研究部門**の3分野に分かれ、所属する教員が研究に従事します。
 「総合国際学」は、本研究院の発足にあたり新たに作られた概念です。
 本学で積み重ねてきた**言語の卓越した運用能力を基に地域に密着した研究**を行い、それを地域を横断した地球規模の問題関心で位置づけていくと同時に、学問領域間を往還するような研究のあり方を、さらに発展させます。

大学院国際日本学研究院

アゴラ・グローバル2階 TEL:042-330-5534 E-mail: kokusai-kyoten@tufs.ac.jp

留学生日本語教育センター、国際日本研究センター、大学院総合国際学研究院の日本関係教員を再配置し、2015年に発足した研究組織・教員組織です。本学で積み重ねてきた海外の日本研究拠点との長年の交流、比較の視点による日本研究、留学生に対する日本語・日本研究教育の実績を活かし、**国際的・総合的な視点から日本を研究の対象とする体制の強化**を目指します。
 アジア・アフリカ研究教育コンソーシアム(CAAS)ユニットと国立国語研究所(NINJAL)ユニットの研究者が参加することで日本研究の高度化をはかります。

アジア・アフリカ言語文化研究所 (共同利用・共同研究拠点)

アジア・アフリカ言語文化研究所棟 TEL:042-330-5600 E-mail: kenkyu-zenkoku@tufs.ac.jp

本研究所は、共同利用・共同研究拠点として**アジア・アフリカの言語文化に関する総合的研究**を行い、アジア・アフリカ世界に関する新たな認識枠組み提供のための**基盤形成**に寄与すべく、次の3つを使命としています。

1. 臨地研究(フィールドサイエンス)に基づく国際的研究拠点としての共同利用・共同研究課題の実施
2. アジア・アフリカ諸地域の言語・文化等に関する研究資源の収集・分析・編纂および研究成果の発信
3. 研究活動および研修・出版・セミナー等を通じた次世代研究者の養成

研究組織は、拠点認定された**言語学、地域研究、歴史学、文化人類学**の3分野の研究ユニットから成るプロジェクト研究部を設置しています。これらの研究ユニットがそれぞれ国内外の研究機関や現地コミュニティと連携して実施する国際共同研究を「**基幹研究**」として設定し、強力かつ集中的に共同研究を推進しています。

基幹研究

多言語・多文化共生に向けた循環型の言語研究体制の構築

中東・イスラム圏における分極化とその政治・社会・文化的背景

アジア・アフリカにおけるハザードに対する「在来知」の可能性の探究

また、共同研究を支援・推進するため、2つのセンターを設置しています。国内外の研究情報資源の蓄積・加工・公開と、それを生かした共同研究手法の開発を行う「**情報資源利用研究センター**」、臨地研究を主体とするフィールドサイエンスの視点から研究手法の開発と研究企画を行う「**フィールドサイエンス研究企画センター**」です。

全国の関連研究者から公募した「共同利用・共同研究課題」(共同研究プロジェクト)も実施しています。「共同利用・共同研究課題」の担い手である共同研究員は、国内外の最先端の研究を行っている328名の専門研究者であり、本研究所の所員との共同研究を活発に展開しています。



学内附属研究施設

語学研究所

研究講義棟 419室 TEL:042-330-5407 E-mail: ilr419@tufs.ac.jp
 設置：1956年 構成員：言語系教員約70名

本研究所は、**言語研究の全学的拠点**として、日本をはじめ世界諸地域の**言語・言語教育・言語科学一般**についての先端的な研究・調査を行っています。研究成果の大学教育への応用はもとより、公開講座等を通して研究成果を広く社会に還元しています。刊行物には『**語学研究所論集**』などがあります。



総合文化研究所

研究講義棟 422室 TEL:042-330-5409 E-mail: tufs422ics@tufs.ac.jp
 設置：1996年 構成員：文学・文化系教員約40名

本研究所は、**ひろく文学・文化に関わる事象**を扱いながら、文献学や翻訳学、批評理論はもちろん、美学・美術史、あるいは思想史や人類学とよばれる領域にまたがって研究を行っています。**世界の個別言語や個別地域の特殊性をもちながら諸条件の総体を複合的かつ統合的に研究し蓄積**することを目的としています。



海外事情研究所

研究講義棟 427室 TEL:042-330-5405 E-mail: ifa@tufs.ac.jp
 設置：1954年 構成員：地域研究・歴史研究系教員約50名

本研究所は、**世界の様々な言語を駆使して専門領域の政治・経済・文化の研究調査**を行い、学際的共同研究を行います。シンポジウムの開催や刊行物を通じた研究成果の社会への還元、世界各地に生起する諸問題に関する正確な理解の普及、社会における「知」の共有促進などを積極的に進めています。刊行物には『**クアドランテ**』などがあります。



国際関係研究所

研究講義棟 401-3室 TEL:042-330-5480 E-mail: iir@tufs.ac.jp
 設置：2011年 構成員：国際関係系教員約20名

本研究所は、**現代の国際社会の出来事を社会科学的分析、すなわち法律・政治・社会学・教育学などの分野からのアプローチ**を通して考察分析していくことを研究の中心に据えています。シンポジウムや連続講演会などの開催、運営にも取り組んでいます。刊行物には『**現代世界の諸相**』『**国際関係論叢**』などがあります。



国際日本研究センター

アゴラ・グローバル2階 TEL:042-330-5794 E-mail: info-icjs@tufs.ac.jp

本センターは、日本語・日本語教育研究と日本研究とを架橋することを目指して、調査研究活動を進めてきました。また「**日本**」を考えるためには、**比較対照の視点**が不可欠であり、日本語・日本地域以外の言語や文化を専門とする教員も重要なメンバーです。国際日本語教育・対照日本語・比較日本文化という3部門から構成されています。これからも、国内外の研究者のネットワーク構築に積極的に取り組んでいきます。

南アジア研究センター

研究講義棟 700室 TEL:042-330-5222 E-mail: findas_office@tufs.ac.jp

本センターは、**現代南アジアの構造変動に関する理解を、重層化・多元化・輻輳化する社会運動の歴史・政治・社会学的分析と文学分析、およびジェンダー視角を軸として深める**ことを目的とします。さらに、国内外の南アジア研究者のネットワークのハブとして共同研究を促進させるとともに、若手研究者の育成および本学が所蔵する文献・史資料群を充実させることを目指します。

附属図書館

TEL:042-330-5195 E-mail: www-lib@tufs.ac.jp

附属図書館は、世界各地から260を超える言語の資料を収集しています。本学の学習・研究活動を支える「情報基地」として、充実したICT環境のもと、多様な学習空間と学習支援サービスを提供しています。

▼ 開館時間

- 平日: 9:00-21:45
- 土・日曜日: 13:00-18:45
- 授業のない期間: 平日 9:00-17:00
- 休館: 祝日、年末年始



▼ 資料配置・建物案内

4階 外国語図書(英語を除く)とICTフロア

- TUFSLearningコモンズ(④(アット)ラボ)
- 学習相談デスク※
- グループ閲覧室
- PC及び印刷コーナー(97台)
- 総合情報コラボレーションセンターカウンター
- ※多言語コンシェルジュ(大学院生)に相談できます

3階 日本語と英語図書のフロア

- 個室閲覧室

2階 参考図書と雑誌・新聞、検索のフロア

- メインエントランス
- 自由閲覧室
- ブラウジングホール
- 返却ポスト
- カウンター
- コピーコーナー
- PCコーナー(32台)

1階 書庫のフロア(2層) ※書庫内は自由に閲覧できます

- アジア・アフリカ言語文化研究所蔵書
- 雑誌バックナンバー
- 各種コレクション

座席数564席(PC利用席含む) 無線LAN利用可

留学支援共同利用センター

本部管理棟1階 TEL:042-330-5113 E-mail: ryugakushien@tufs.ac.jp

同センターは、本学が平成26年度(通称:トビタセンター)文部科学省スーパーグローバル大学創成支援(タイプB:グローバル牽引型)に選定されたことに伴い、大学のグローバル化を支援するために設置されました。留学(派遣・受入)における支援機能を担っています。



日本人学生に対しては、留学に関する情報提供、留学プログラムの作成、相手先大学との交渉、学生への留学前・後教育のコーディネート等、留学促進を目的とした支援を行い、日本で学ぶ各国・各地域出身の留学生に対しては、母語によるコミュニケーション・サポートを提供します。本センターは、他大学生も支援の対象としています。



ワールド・ランゲージ・センター

研究講義棟3階304室 TEL:042-330-5416 E-mail:tufs-elic@tufs.ac.jp

■ 英語学習支援センター

英語学習支援センター(ELC)は、英語の自律学習を支援するため、スピーキング・セッション、多聴・多読プログラム、オンライン学習プログラム等の多様な学習の機会を提供しています。毎年、英語学習の記録と英語力を記した「TUFSLanguageパスポート」を学生に発行しています。新たに研究講義棟4階にイングリッシュ・ラウンジ(English Lounge)を開室し、だれでも気軽に立ち寄り留学生を交えた英語での会話を楽しめるスペースとして活用しています。ラウンジでは英語学習についての相談も受け付けています。



研究講義棟4階401-2号室 電話 042-330-5541 E-mail:cefrj@tufs.ac.jp

■ CEFR-J推進室

ヨーロッパ言語共通参照枠CEFRに準拠したCEFR-J基準により、本学で教育する言語の達成度を可視化するプロジェクトを推進しています。研究講義棟4階の多言語ラウンジもCEFR-J推進室により運営されています。

保健管理センター

TEL:042-330-5188 E-mail: hoken-center@tufs.ac.jp

保健管理センターは、学生及び教職員の心身両面にわたる健康状態の保持・増進を支援し、これを通じて、就学および就労環境を整備することを主な業務としています。診療・応急処置などのプライマリ・センター機能だけではなく、ヘルスプロモーションやメンタルヘルスケアのセンターとしての機能も合わせ持ち、各種健康診断、健康情報の発信、コミュニケーションサポートなども行っています。



学生相談室

研究講義棟1階TEL:042-330-5560 E-mail: gakusei-soudan@tufs.ac.jp

学生が様々な疑問や悩みを解決し、充実した学生生活を送ることができるよう、援助・助言するための学生相談室を設置しています。

授業の履修方法など修学上の問題から、進路、身体や心の健康、そして日常生活の問題まで、ありとあらゆる内容の相談を受け付けています。

持ち込まれた相談内容については、学生相談員がその内容、程度を問わず、親身になって相談にあたります。



グローバル・キャリア・センター

研究講義棟2階TEL:042-330-5832 E-mail: career@tufs.ac.jp

グローバル化する時代に本格的な就職支援をおこなうため、本センターを設置しています。



本センターでは、一人ひとりの学生が、自立した社会人・職業人として生きがいと働きがいと満ちた人生を送ることができるよう、自らの人生を設計し、主体的な進路選択、職業選択をおこなうことを支援します。学内でのガイダンス、外交官・国家公務員総合職プログラムの実施などのほか、アドバイザーによる個別相談制度を設けています。

ボランティア活動スペース (VOLAS)

研究講義棟2階206室 E-mail: volas@tufs.ac.jp

本学は、ボランティア活動を学生の重要な学びの機会と考え、教育活動の一環としてとらえています。



VOLASでは、学生がボランティア活動を通じて、主体性や多様な視点からの実践的な知などを養うことができるよう、ボランティアのきっかけ作りや情報・学びの場の提供などのサポートを行っています。特に本学の所在地である府中市内での多様な子どもたちへの学習支援活動が盛んです。その他、さまざまな学生主体のボランティア活動を支援しています。

総合情報コラボレーションセンター (ICC)

附属図書館4階 TEL:042-330-5160 E-mail: icc-service@tufs.ac.jp

現代社会では、専用のコンピュータネットワークを備え、常時インターネットへの参加をする情報基盤がなければ、国際的な大学として存続できません。本学では、ICCがこの情報基盤事業を担当しています。ICCでは、キャンパス内全域に有線、無線のコンピュータネットワークを張り巡らし、すべてのユーザの安全なネットワーク参加を実現しています。また、本学が日本の正式な学術機関であることを示すtufs.ac.jpというドメイン名を用いたインターネット参加に必要なすべての事業を担っています。

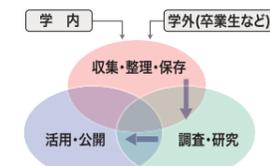


大学文書館 (国立公文書館等指定機関)

研究講義棟6階TEL:042-330-5842 E-mail: tufsarchives@tufs.ac.jp

大学文書館は、本学の歴史に関わる資料を収集・整理・保存し、その活用を促進する施設です。本学に関わる史資料の収集・整理・保存を行うとともに、資料の調査・研究を行い、その成果を大学史の編纂、資料集等の刊行、展示活動などを通じて、大学の教育・研究活動に還元しています。

附属図書館1階のギャラリーとホームページ上で、**収集史資料の一部を使った展示**を行っています。



東京外国語大学出版会

アゴラ・グローバル2階TEL:042-330-5559 E-mail: tufspub@tufs.ac.jp

本学出版会では、歴史・言語・文化・地域研究などのジャンルの学術的な著作から、教養書、人文・文芸書などの翻訳、また語学をはじめとする教科書に至るまで、幅広い企画の出版活動に取り組んでいます。世界諸地域の言語・文化・社会に関する教育と研究を通じて本学の歴史の中で蓄積された成果を、広く社会に発信し、さらなる教育・研究活動の振興と、地球社会との協働を促進していくための知識の普及をめざしています。



社会・国際貢献

本学では、世界の諸言語・文化に精通した本学独自の専門性を活かして、国内外における社会連携の展開や大学教育を社会に開放することにより、国際貢献・社会貢献を推進しています。

大学教育を社会に開放

TUFSオープンアカデミー

開かれた学術的な生涯学習の場として、TUFSオープンアカデミーを開設しています。本学の理念である「21世紀の地球社会と対話し行動する」をモットーに、グローバル時代に必要な知と教養の獲得をサポートします。



■ アカデミー講座

2016年度は、**33言語**からなる**語学講座**、**世界諸地域の文化・歴史**などの**教養講座**を、府中キャンパス、本郷サテライトにて、春・夏・秋期間に分け、計244講座(予定)開講します。

■ 一般聴講生制度

本学で開講されている**授業科目の一部を開放**することにより、本学の授業を受講できる制度です。2015年度より、これまでの「市民聴講生制度」から「一般聴講生制度」に変更し、他大学生や高校生も聴講できる制度に拡充しました。春・夏・秋・冬学期にそれぞれ20~230科目を開放し、数百名が受講しています。

■ 多文化社会専門人材養成講座

異なる言語や文化面の理解、共に生きるための施策や教育、こころの問題など、**多文化社会の問題解決に必要とされる包括的な知識を学ぶ講座**を開講します。



アジア・アフリカ言語文化研究所言語研修

アジア・アフリカ言語文化研究所では、アジア・アフリカ地域の研究を志す初学者向けに、**短期集中的な言語研修**を実施しています。

2016(平成28)年度実施研修:
琉球語、ゾンカ語、ヒンディー語

国内外における社会連携の展開

国内外の企業、学校、自治体、NGOをはじめとするさまざまな機関・施設と連携し、研修、ボランティア活動、地域貢献活動(コミュニティ・サービス)などを推進しています。

■ 地域との連携

本学は、東京都府中市および調布市とそれぞれ相互友好協定を締結しています。(ともに2006年より)

■ その他の機関との連携

本学は、**社会・国際貢献に関わる包括協定**を次の機関と締結しています。(とも2014年より)

- 一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
- 特定非営利活動法人国際社会貢献センター(ABIC)

社会・国際貢献情報センター

研究講義棟3階319室 TEL: 042-330-5441 E-mail: icisc@tufs.ac.jp

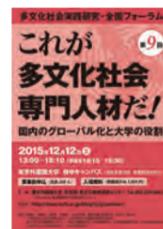
社会連携や国際連携・国際交流に関する情報を収集し、当該情報の分析結果を学内外に**情報提供・発信**することで、本学の社会・国際貢献の推進を測ることを目的としています。その他、年に5~6回程度の地域講演会などを開催し、世界の諸事情を広く日本社会に発信しています。



多言語・多文化教育研究センター

研究講義棟3階319室 TEL: 042-330-5441 E-mail: tc@tufs.ac.jp

本センターでは、多文化共生社会を担う人材の育成講座や、ボランティアの紹介等の高度な言語能力を有する人材の活用を行っています。また外国につながる子ども用の教材の5言語による公開や「対話型アセスメント(DLA)」普及のための研修など、在日外国人児童生徒の支援事業を実施しています。



大学・高校などとの連携

本学では、教育研究交流・学生交流、単位互換などを目的に、個性ある様々な大学と教育研究連携を締結しています。連携することで幅広い教育・研究の交流を推進しています。

四大学連合憲章

東京医科歯科大学、東京工業大学、一橋大学、本学の**4大学で結成**している連合です。それぞれ独立を保ちつつ連携を図ることで、これまでの高等教育で達成できなかった新しい人材の育成と、学際領域・複合領域の研究教育のさらなる推進を図ることを目的としています。

全国外大連合憲章

全国の7つの外国語大学(関西外国語大学、神田外国語大学、京都外国語大学、神戸市外国語大学、名古屋外国語大学、長崎外国語大学、本学)で結成している連合です。21世紀グローバル社会にふさわしい人材の育成のために連携を図ることを目的としています。

西東京三大学連携

電気通信大学、東京農工大学、本学の西東京地区**3大学で、文理協働型のグローバル人材育成プログラム**を行います。現在、東京農工大学との連携では、「現代能楽の最前線-食料・生命・資源・環境の諸問題」や「農業実習」が開講されています。

多摩アカデミックコンソーシアム (TAC)

多摩地区6大学(国立音楽大学、国際基督教大学、津田塾大学、東京経済大学、武蔵野美術大学、本学)で結成している**コンソーシアム**です。それぞれの特色ある専門分野を生かした相互協力、単位互換制度や図書館の相互利用、学生・教職員の交流などを行っています。

多摩地区5大学単位互換制度

多摩地区5国立大学(東京学芸大学、東京農工大学、電気通信大学、一橋大学、本学)間の**相互の交流と教育課程の充実**を図ることを目的としています。本制度により、受け入れ大学で授業科目を履修し、授与された単位は、本学において修得単位として入ります。

EUIJ東京コンソーシアム

国際基督教大学、津田塾大学、一橋大学、本学の**4大学で結成**している**コンソーシアム**です。日本における**欧州連合(EU)研究のための学術拠点**の一つです。4大学で間でEU関係授業科目の単位互換や、イタリア(フィレンツェ市)にある欧州大学院との学術交流を行っています。

教育研究交流

本学は、**16大学および3機関と包括協定**を締結しています。

国際医療福祉大学、国際交流基金、清泉女子大学、人間文化研究機構、長岡技術科学大学、日本体育大学、電気通信大学、神田外国語大学、日本貿易振興機構アジア経済研究所、名古屋外国語大学、東京農工大学、津田塾大学、国際基督教大学、神戸市外国語大学、東京芸術大学、お茶の水女子大学、東京女子大学、首都大学東京、中央大学

高等学校等との連携

本学と連携協定を締結している**高等学校、中等教育学校及び中学校(以下「高大連携校等」)**の間では、**本学の授業体験、本学の大学概要説明、留学生と高大連携校等の生徒の交流**などを行っています。高大連携校等のうち、文部科学省スーパーグローバルハイスクール(SGH)事業の指定を受けた学校については、連携を通じて、同事業の支援を行っています。(連携校は本学ウェブサイトを参照)

◆ Global Japan Office
(本学が海外協定校に開設する海外オフィス)

[ヨーロッパ]

- オーストリア
 - ウィーン大学
 - オーストリア科学アカデミー
- ブルガリア
 - ソフィア大学
- チェコ
 - カレル大学
- フランス
 - パリ第三大学
 - パリ第三大学・通訳翻訳高等学院
 - チベット言語文化研究所
 - パリ政治学院
 - フランス国立東洋言語文化学院
 - ボルドー政治学院
 - リール第三大学
 - パリ第七大学
 - グルノーブル第三・スタンタール大学
 - エククス・マルセイユ大学
- ドイツ
 - ビーレフェルト大学
 - ギーゼン大学
 - マールブルク大学
 - エアランゲン・ニュルンベルク大学
 - ゲッティンゲン大学
 - ケルン大学アフリカ学研究所
 - マックス・プランク進化人類学研究所
 - ハンブルグ大学アジア・アフリカ研究所
 - ミュンヘン大学ドイツ語講座
- ハンガリー
 - 中央ヨーロッパ大学歴史学部
- アイルランド
 - アイルランド国立大学コーク校
- イタリア
 - ナポリ東洋大学
 - ヴェネツィア大学
 - トリノ大学
 - ローマ大学「ラ・サピエンツァ」
 - トレント大学
 - ボローニャ大学
- カザフスタン
 - カザフ国立大学
- オランダ
 - ライデン大学
 - オランダ王立言語・地理・民族学研究所
- ノルウェー
 - トロムソ大学
- ポーランド
 - 国際文化研究所
 - ヤギェロン大学
 - シロンスク大学
- ポルトガル
 - コインブラ大学
 - リスボン大学
 - カモンイス院
 - ポルト大学
- ルーマニア
 - ルーマニア文化院
- ロシア
 - ロシア国立人文大学
 - モスクワ大学
 - サント・ペテルブルク国立大学
 - モスクワ国際関係大学
 - 極東連邦大学
- セルビア
 - ◆ ● ベオグラード大学
- スロベニア
 - リュブリャナ大学
- スペイン
 - セビーリヤ大学
 - ボンベウ・ファブラ大学
 - エシェバル・バスク院
 - マドリッド自治大学
 - ◆ ● サラマンカ大学
 - バルセロナ自治大学
 - ラモン・リュイ院
 - セルバンテス文化センター
 - アルカラ大学
 - バスク大学
- スイス
 - ジュネーブ大学
 - チューリヒ大学
- トルクメニスタン
 - 国際人文開発大学
- 英国
 - ◆ ● ロンドン大学東洋・アフリカ研究学院
 - リーズ大学
 - マンチェスター大学
 - エセックス大学
- ウズベキスタン
 - タシュケント国立東洋学大学

[北米]

- カナダ
 - プリディッシュ・コロンビア大学
 - レジャイナ大学
- 米国
 - コーネル大学
 - カリフォルニア大学サンディエゴ校
 - ニューヨーク州立大学オルバニー校
 - コロンビア大学
 - サンディエゴ州立大学
 - ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校
 - ネブラスカ大学カーニー校

[中南米]

- アルゼンチン
 - 国立ラプラタ大学
- ブラジル
 - ◆ ● リオ・デ・ジャネイロ州立大学
 - バラナー連邦大学
 - カンピナス州立大学
- コロンビア
 - エアフィット大学
- コスタリカ
 - 国連平和大学
- メキシコ
 - メキシコ国立自治大学
 - ◆ ● グアナフアト大学
- ウルグアイ
 - ウルグアイ共和国大学

[アジア]

- バングラデシュ
 - ダッカ大学
- ブータン
 - ソンカ語発展委員会
- ブルネイ
 - ブルネイ・ダルサラーム大学
- カンボジア
 - 王立フノンベン大学
- 中国
 - ◆ ● 上海外国語大学
 - 北京語言大学
 - 厦門大学
 - 東北師範大学
 - 大連外国語大学
 - 内モンゴル大学
 - 北京外国語大学
 - 北京大学外国語学院
 - 寧波大学
 - 香港中文大学
 - 香港大学
- インド
 - 文部省インド諸語中央研究所
 - インド統計研究所
 - テリー大学
 - 高等コンピューティング開発センター
 - ジャドププル大学
- インドネシア
 - ガジャマダ大学
 - インドネシア科学院社会文化研究センター
 - インドネシア大学
 - アトマ・ジャヤ・インドネシア・カソリック大学
 - マナド国立大学言語芸術学部
- ラオス
 - ラオス国立大学
- マレーシア
 - マレーシア国立言語・図書研究所
 - サバ開発研究所
 - マレーシア国民大学
- モンゴル
 - モンゴル国立大学
 - ホブド大学
- ミャンマー
 - ◆ ● ヤンゴン大学
- パキスタン
 - カイデアザム大学
 - パンジャーブ大学オリエンタルカレッジ
- フィリピン
 - フィリピン国立大学
- 韓国
 - 延世大学校
 - ソウル大学校
 - ◆ ● 韓国外国語大学校
 - 淑明女子大学校
 - 韓信大学校
 - 聖公会大学校
 - サイバー韓国外国語大学校
- シンガポール
 - シンガポール国立大学人文社会科学部
- タイ
 - シーナカリンウィロート大学
 - タマサート大学教養学部
 - チュラーロンコーン大学
 - チェンマイ大学
- ベトナム
 - ハノイ国家大学人文・社会科学大学
 - ホーチミン国家大学人文・社会科学大学
 - ハノイ国家大学外国語大学
- 台湾
 - 国立政治大学
 - 国立台湾大学
 - ◆ ● 淡江大学
 - 国立台湾師範大学
 - 開南大学

[中東]

- イラン
 - 農業計画・経済研究センター
 - アッラーメ・タババーターイー大学
 - イスラーム自由大学シーラーズ分校
 - イスファハン大学
- ヨルダン
 - アリー・バーバー・インターナショナル・センター
- レバノン
 - ベイルート・アメリカン大学
 - レバノン大学人文科学部第1部
 - ドイツ東洋学会ベイルート・ドイツ東洋学研究所
- シリア
 - ダマスカス大学
- トルコ
 - アンカラ大学
 - ボアジチ大学
 - ユヌス・エムレ・インスティテュート
- パレスチナ
 - ビルゼイト大学

[オセアニア]

- オーストラリア
 - オーストラリア国立大学
 - メルボルン大学
- ニューージーランド
 - オークランド大学
 - ヴィクトリア大学ウェリントン

63カ国・地域 167機関